



本年2月に行いました接遇・マナーについての講習風景です。当院では1年に1度、院外講師をお招きし、患者サービス向上を目的とした接遇・マナー講習を行っております。

医療法人 敬徳会 藤原記念病院の理念と基本方針

私たちは設立の動機である『地域のための医療』を理念とし、次の事項を基本方針といたします。

基本方針

1.良質な医療提供に関する事項

患者さま本位の医療と良質な医療を提供することを念頭に、救急病院として急性期医療から慢性期医療までを担う病院。また、地域の福祉施設、訪問看護ステーション、自治体などと連携し患者さまに最適な療養環境の提供を目指します。

2.患者さまに対する職員の対応に関する事項

笑顔をもっととし、常に患者さまの立場に立ち、患者さま中心の精神を持って行動します。

3.患者さまの権利の尊重に関する事項

患者さまの権利章典を制定し、常に患者さまの権利を尊重し、十分な説明と合意に基づいた『共同的な営み』として医療を行います。

4.職員の就業に関する事項

私たちはプロ意識を持ち、常に自己研鑽に励み、新しい知識と技能の習得に努めます。



昨年11月より当院内科へ勤務しております藤原崇史（ふじわら たかし）です。高校までは栃木県で過ごし、弘前大学医学部へ進学、卒業臨床研修は両親が秋田市出身ということもあり、秋田県の病院を検討し由利本荘市の由利組合総合病院で行いました。その後、秋田大学医学部附属病院第3内科（血液・腎臓・膠原病内科）や山本組合総合病院内科などに勤務し、一般内科に始まり腎臓内科、膠原病内科として研鑽を積んで参りました。大学時代は大館や横手の腎臓内科・膠原病内科の外来を担当したことはありますが、潟上～男鹿地域を担当することはなかったので私自身も病院もまだ手探りな部分があります。循環器科や消化器科、呼吸器科などに比べると馴染みのない領域かもしれませんが、実は多くの患者さんがいます。何か気になることがありましたら気軽にご相談ください。現在は大学医師が担当していた木曜日午後の血液内科外来（患者さんの人数は腎臓膠原病の方のほうが多いと思います）を引き継いでいます。



血液内科科長
藤原崇史 医師

さて、今回は腎臓病について少し触れたいと思います。最も多くの方が該当する病気、それは「慢性腎臓病」です（CKDと略します）。ここ数年、TV等でも耳にすることが増えた病名です。でも、CKDって一体何なのでしょう…？ まず知っていただきたいのは、この10年でCKDという新しい病気が発見されたわけでも、この病気の患者数が爆発的に増えたわけでもないということです。ではなぜ、あえてCKDという病名を付け、広げるキャンペーンを日本腎臓学会は行ってきたのでしょうか。それは、腎臓病の自覚症状のなさ、ある程度悪くなったら元には戻せない（不可逆性）、さらに悪くなったら進行を遅らせることもできない…、このような特徴によるところが大きいです。腎機能の指標として、一般的には採血項目の血清クレアチニン（Cre）、尿素窒素（BUN）などが参考にされます。しかし、採血で基準値を超えて腎機能が低下しているとわかるのは実は腎機能が同世代の健常人の2/3～半分程度に低下してからです。自覚症状が出るのはさらに腎機能が悪化してからですから、具合が悪くなり、採血をして著しい腎機能障害に気付かれ腎臓内科や泌尿器科を紹介受診してもそれは手遅れであることがほとんどです。私自身、幾度となくこのような患者さんを前にして悲しい思いをしてきましたし、患者さんやご家族はそれ以上に悲しい思いをしたことでしょう。ではどうすればこのような事態を防げるのでしょうか？ ここでCKDの登場です。腎臓内科医以外の先生方はもちろん、患者さん自身も自分が腎臓病であることを認識し、気軽に腎臓内科へ相談してみようと思えるように専門家が知恵を絞った結果がCKDなんです。CKDの定義を確認してみましょう。

「①尿異常、画像、血液、病理で腎障害の存在が明らか。特に蛋白尿の存在が重要。②糸球体濾過量（GFR）が $<60\text{mL/min/1.73m}^2$ 。①②のいずれかまたは両方が3ヶ月以上持続する。」

どうですか？例えば①。去年今年と職場の健診で尿蛋白が陽性だったあなた。CKDです。②はこれだけ見ると何のことやらわかりません。が、採血で血清Cre値が男性で 1.1mg/dl 以上、女性で 0.9mg/dl 以上なら中年以降はほぼ該当します。その原因が高血圧だろうが糖尿病だろうが腎炎だろうが原因不明だろうが何でもいいんです。そして、CKD診療ガイドラインには腎臓内科へ相談するべきタイミングについても明確に記載されています。

「①高度の蛋白尿（推定で 0.5g/日 以上もしくは $2+$ 以上）②蛋白尿と血尿が共に陽性③GFR 50mL/min/1.73m^2 未満（中年男性だとCre 1.3mg/dl 以上、中年女性だと 1.0mg/dl 以上に相当します）。①～③のいずれか1つでも該当する患者。」

やや一般の方には専門的になってしまいましたがこのように記載されています。CKDの定義と合わせ、注目すべきは尿蛋白の重要性です。腎臓が悪くなる方の大部分は、採血異常が出る前に尿検査異常が認められます。つまるところ腎臓内科医からCKDに込められたメッセージというのは、『採血で腎機能が正常でも、持病が何でも、尿検査異常があったら1回相談して下さい』、ということに尽きると思います。「こんなことで受診していいのかな…？」「こんなことで紹介していいのかな…？」←「いや、是非してください。早期発見早期治療が重要です。」・・・これがCKDの正体です。

CKDは腎臓内科医向けに作られた病名ではなく、腎臓内科医以外・患者さん向けに作られた言葉です。そこには『採血で腎機能が悪くなる前に、尿検査異常で気軽に相談しましょう。持病や原因は問いません。』というメッセージが込められています。残念ながら秋田県内の腎臓内科医は限られています。でも、それは受診/紹

介の抑制や機会喪失の理由には決してしてはならないと思います。今日、この文章を読んで自分がCKDだと気付いた患者さんや、尿検査に興味を持っていた先生がいて、将来的に1人でも多くの腎臓が守られれば良いなあ…と思いながら終わりにしたいと思います。

今回は腎臓のことについて書きましたが、一般内科のこと、膠原病のこと、医療以外のことも相談受け付けています。いたらない点も多々あるかと思いますがよろしくお願いいたします。

各部門紹介コーナー

今回は看護部「3階病棟」の紹介です。

部門概要

3階病棟は主に内科の寝たきりの患者さんが入院されています。

アットホームな病棟を目指し、スタッフは家族の様な繋がりのなかで頑張っています。

スタッフ： 看護師23名、看護助手12名、メディカルクラーク1名

病 床 数： 48床



病棟アピール

「患者様のQOL(日常生活の質)向上のため、適切な継続看護を展開できる」を目標とし、日々努力をしています。

入院生活が、患者様にはもちろんですが、家族にも満足していただけるように笑顔で明るく誠意を持って接することを心掛けています。そして地域の方々に信頼され、気兼ねなく病院をご利用いただけるように頑張っています。

<3階病棟師長 伊藤 久美子>



スタッフから一言

- ・皆が優しく助け合い頑張っています
- ・歌って踊れるスタッフが揃っていて楽しく仕事が出来ます
- ・美人でスタイルが良いスタッフが揃っています
- ・笑い笑顔で優しく接しています
- ・きめ細やかな気遣い出来ます
- ・家族の希望を取り入れ、家庭的な安らぎを提供できるように努力しています
- ・良い病棟になるように一人一人が誠実に努力しています
- ・団結力があり、統率力のとれた病棟です
- ・看護助手さんの仕事ぶりは素晴らしい。いつも感謝しています



インフルエンザは、インフルエンザウイルスに感染することによって起こる病気です。

38℃以上の発熱、頭痛、関節痛、筋肉痛など全身の症状が突然現れます。併せて普通の風邪と同じように、のどの痛み、鼻汁、咳などの症状が見られます。お子様ではまれに急性脳症を、ご高齢の方や免疫力の低下している方では肺炎を伴う等、重症になることがあります。



【インフルエンザの予防】

インフルエンザの予防方法としては、

①流行前のワクチン接種

インフルエンザウイルス感染症の予防はワクチン接種が推奨されています。

特に高齢者や呼吸器系・循環器系などに慢性疾患がある人はインフルエンザに罹ってしまうと重症化しやすいので、積極的にワクチンを接種した方が望ましいでしょう。

接種するタイミングとしては、接種後抗体産生までに1～2週間ほど要しますので12月頃までに病院にて接種するのがよろしいでしょう。



②飛沫感染対策としての咳エチケット

『咳・くしゃみの際にはティッシュなどで口と鼻を押さえ、周りの人から顔をそむけよう』

『使用後のティッシュは、すぐふた付きのゴミ箱に捨てよう』

『症状のある人は、マスクを正しく着用し感染防止に努めよう』



③外出後の手洗い、うがいなど

外出から帰った後、食事の前には必ず手洗い、うがいの習慣をつけましょう。

手洗いは、接触による感染を、うがいはのどの乾燥を防ぎます。



④適度な湿度の保持

ウイルスは低温、低湿を好み、乾燥しているとウイルスが長時間空気中を漂っています。室内では、こまめに換気を行い、加湿器などを使用し、適度な湿度（50～60％）を保ちましょう。

⑤十分な休養とバランスのとれた栄養摂取

起床、就寝と3食の時間を規則的にし、栄養のバランスを考えた食事にしましょう。

常日ごろからバランスよく栄養をとることが大切です。食べて体力をつけ、抵抗力を高めることで感染しにくい体にしましょう。

⑥人混みや繁華街への外出を控える

インフルエンザは、咳やくしゃみによって感染します。

冬場は人ごみの多い場所へ外出するのは極力避けるようにしましょう。

外出時のマスクの利用や帰宅時のうがい、手洗い等は、風邪の予防と併せておすすめします。



【もしインフルエンザに罹ってしまったら】

一般的にインフルエンザウイルスに感染し、発症後は、3日～7日間ウイルスを排出すると言われていま
す。この期間に患者は感染力があるといえますが、排出されるウイルス量は経過とともに減少しますが排泄期
間の長さには個人差があります。

抗インフルエンザ薬の内服によって発熱期間は通常1～2日間短縮され、ウイルス排泄量も減少されま
す。解熱後の感染力が同じように短縮されるとは限りません。

また、従来からの安静、水分補給、栄養維持は必要です。



①病院で正しい治療を受けましょう

早めに医療機関を受診して治療を受けます。

また、健康な成人であれば1週間ほどで治癒に向かいますが、インフルエンザウイルスは熱が下がっても体
内には残っているため、他の人にうつす恐れがあります。

流行を最小限にするためにも1週間は安静にしましょう。

②十分な休養と睡眠をとりましょう

安静にして休養と睡眠を十分にとります。高熱が出るので氷枕やアイスノンで頭を冷やしましょう。他にわき
の下、太ももの付け根、首の頸動脈など、太い動脈が通っている部分を冷やすと、熱を冷ますのに効果的です。

③十分な栄養、水分を摂りましょう

食事は消化の良いものを摂りましょう。お茶や、ジュース、スープなどの飲み物で水分を十分に補給しま
しょう。

④部屋の温度、湿度に注意しましょう

部屋は、時々換気をし、適度の室温（18～20℃）と湿度（50～60％）を保ちましょう。

⑤マスクを着用しましょう

基本的にインフルエンザは飛沫感染であります。飛沫というのは、1～2メートル以上は飛びません。咳な
どの症状が続いている場合に、咳やくしゃみをする際はハンカチやティッシュで口元を覆います。マスクをし
ていれば飛沫の発生は最小限に抑えます。

院内感染対策チーム

高橋 利也

☆インフルエンザ感染対策は様々ありますが、まず日頃からの情報収集が重要です。

そこで、最新の流行情報や感染対策を手軽に確認できる、スマートフォンアプリをご紹介します。

▼スマートフォン アプリを活用した情報収集▼

★あなたの街のインフルエンザ速報 by ドコモ環境ライブ

・あなたの街のインフルエンザ流行情報を翌朝おしらせ！／Android 無料です。

★インフルエンザ警戒計

・インフルエンザの感染リスクを4段階で表示！／iphone 無料です。



CT装置更新のお知らせ

当院では、最新型64列マルチスライスCT装置(東芝[®] イカリズム[®] 社製Aquilion CXL)を新たに導入し、平成24年11月より稼働を開始しております。先進医療における様々な診断ニーズに対応する最新のCT装置です。



・空間分解能、密度分解能に優れた画像の提供

0.5mm×64列で撮影した場合、一回転あたり0.5mm厚の断層像が0.25mm間隔で128スライス得られます。そのため細かい血管の状態や走行、さらには微細な骨の形状までも鮮明に描出することができます。

・X線被ばくの低減

独自の画像再構成処理でノイズ低減を行うことで、高い分解能(高画質)を維持しつつ、効果的に被ばくを抑えることができます。

・高速撮影が可能

一回転の時間は最短0.35秒の高速撮影が可能です。胸部から骨盤部までの範囲を1回の息止め(約10秒)で撮影できます。息止めの困難な方の撮影にも呼吸によるブレの少ない画像を得ることができます。

・多方向画像や立体表示(3D表示)が可能

得られた薄い画像を再構成すると、任意の断面での画像を得ることができます。また、必要に応じて専用の画像解析装置(富士フィルム[®] イカリ社製 ワークステーション VINCENT)により血管、骨、大腸などの立体画像処理も可能です。



腹部～下肢 3D画像(血管・骨)



大腸3D画像



骨盤3D画像

この最新型CT装置を導入したことで、患者様にとっては従来に比べて楽に検査ができるようになったことと思います。今後は、装置の性能を最大限発揮させ、最高レベルのCT画像を提供できるよう放射線科一同努力していきます。

(放射線科 安達雅行)

編集後記

今年は例年以上の大雪で、大変でしたね。ようやく雪解けを迎えようとしています。

医療に限ったことではありませんが、世の中は日々進化を続けていることを切に感じるこの頃です。その変化についていくことも大切ですが、時々、基本や初心に立ち返り、落着いて物事を見極めるのも、大切なことだと思います。とりあえず、CTの検査時間が短くなったのは、嬉しい変化でした。皆様の負担も軽減することと思います。

桜が咲くのを心待ちに、心身の調子も整えていきましょう。



Fujiwara Memorial Hospital

藤原記念病院

〒010-0201 潟上市天王字上江川47

TEL 018-878-3131 FAX 018-878-7234

URL <http://www.fujiwarahsp.or.jp/>

特選!受付のお花

いつも患者様にご好評頂いている受付の花を特選し、紹介します。

イタリアのシチリア島で自生していたこの花を、イタリア人の司教が、この種子をイギリスの知人に贈り、その後、イギリスで改良が重ねられ現在の姿になったそうです。イギリスのエドワード7世の戴冠式に使われて、一躍有名になったという話もあります。麝香連理草(じゃこうれんりそう)の和名がありますが、この名前では呼ばれることはあまりなく、もっぱら英名のスイートピーで通っています。

野生種(原種)はブルーと赤紫色の花びらをもつ派手な色彩で、遠目からでも人目を惹き、芳香も強いのが特長です。この写真の花は淡い紫で、派手でなく、芳香もあまり強くありません。でもこの優しい感じが逆にいい味を出しているような…気がします。

ちなみに花言葉は「デリケートな喜び」だそうです。デリケートって…一体どんな喜びなのか私には理解不能です。

一般名:スイートピー
学名:Lathyrus odoratus

科属名:豆科
ハマエンドウ(ラティルス)属



なつめの由来



花自体は小さくてあまり目立たないなつめ。実は利尿作用や滋養強壮の薬として使われたり、食用として食べたりと用途は様々で、とても重宝されております。決して大きい病院ではありませんが、当院も地域の皆様に重宝されるような病院を目指しなつめと名付けました。(なつめの花言葉『健康の果実』)